NAVIFY® Tumor Board



私たちが求めたのは、スタッフの 負担を減らし、エキスパートパネルを 効率的に運用できるシステムです。

VOICE of EXPERT

富山大学附属病院 臨床腫瘍部 教授 総合がんセンター センター長 がんゲノム医療推進センター センター長 Vol.2

林龍二先生

富山県内で唯一、がんゲノム医療拠点病院に指定された富山大学附属病院。多くの専門家が集まり会議を重ねる エキスパートパネルを円滑に運営するために、必要とされたシステムとは何か。同施設の「がんゲノム医療推進センター」で センター長を務め、がんゲノム医療の中心的役割を担う林龍二先生にお話を伺った。

エキスパートパネルを 充実させるためのソリューションを 活用したいと思っていました。

―― 富山大学附属病院におけるがんゲノム医療の取り組みと、エキスパートパネルの 運営方針や実績についてお聞かせください。

がんゲノム医療は新たながん治療発展のカギとして、保険導入されました。富山大学附属病院は2019年9月に「がんゲノム医療拠点病院」に指定され、富山県内でがんゲノム医療の中心的役割を果たしています。特に一地方である富山県において、先端医療であるがんゲノム医療を普及、発展させていくことが大学病院の使命であると考え取り組んでいます。

当院のエキスパートパネルの運営にあたっては、施設内のメンバーと密に情報共有を行い、 患者さん最優先の議論を進めています。毎週 月曜日に開催しているエキスパートパネルには 常時、多くの診療科医師、スタッフが参加し、 NAVIFYを使用して討論を進めている状況で す。また、2019年11月から保険診療で本格始 動をしており、2021年5月までの約1年半の間に 150例以上の症例をエキスパートパネルで検討 しています。

連携病院との連携開始前にNAVIFY Tumor Boardの導入を決めた背景につい て、教えてください。 エキスパートパネルを行うためには、担当医師やその他病理スタッフ、がんゲノム医療コーディネーター等が多くの準備をして臨まなければいけません。つまり、連携病院の有無にかかわらず、参加スタッフに大きな負担がかかってしまうわけです。

そこで、エキスパートパネルを効率的に運用するために、スタッフの負担を減らし、会議を充実させるためのソリューションがあれば活用したいと考えNAVIFYの導入を決めました。





資料の準備やプレゼンテーションもNAVIFYで。 エキスパートパネルの管理運営面での作業が とてもスムーズになりました。

―― エキスパートパネルを効率的に運用するためのシステム選定にあたって、特に重視したのはどのようなポイントでしょうか?

エキスパートパネルを運用するためのシステムの選定にあたって、以下の4つのポイントを挙げました。まずは「①海外での先行実績」があること。次に「②ネット運用の利便性とVPNによる安全性」が両立されていること。「③プレゼンシステム」が搭載されていること。そして「④治験・文献検索システム」が搭載されていることで

す。私たちが求めたこれらのポイントに合致して いることからNAVIFYを導入することに決めた のです。

―― NAVIFY Tumor Boardの導入前・ 導入後での変化点について教えてください。

NAVIFY導入前は、エキスパートパネルのスケジュールは事務員がマニュアル管理し、プレゼンスライドは担当医がパワーポイントで作成していました。また、エキスパートパネルの討議結果は、プレゼンスライドに記入していました。

一方で導入後は、これらの情報がNAVIFY で一括管理できるようになったのです。また、 NAVIFYに付随するデータ入力サポートソ リューション(RPA*)により、遺伝子変異結果と C-CATへの入力済み情報が自動転記される ようになりました。

これにより、入力時間の短縮はもちろん、誤記を防ぐという正確性も得られました。 NAVIFYの導入により管理運営面で作業がスムーズになったと考えています。

* Robotic Process Automation

システムの選定にあたって重視した4つのポイント

- 1 海外での先行実績
- 2 ネット運用の利便性とVPNによる安全性
- 3 プレゼンシステムが搭載されていること
- 4 治験・文献検索システムが搭載されていること



NAVIFY Tumor Boardを使用した際の使用感について、お聞かせください。

エキスパートパネルを運用するにあたり、 NAVIFY導入前は利便性と安全性という二つ



の相反する事柄 を両立させること に、大変頭を悩ま せていました。 NAVIFYはクラ ウド型ツールのた め、複数の人が

同時に入力編集でき利便性が向上しました。 その一方で、3省2ガイドラインに沿った様式で あるため安全性も担保されています。

また、NAVIFYに必要な情報を入力すると、 自動的にエキスパートパネルのプレゼンテーションに反映されるので非常に便利です。また、あらかじめフォーマットを決めておけば、統一されたプレゼンテーションの形になるので、編集操 作も以前に比べとても簡単になりましたね。あとは、プレゼンテーション中に議論内容を記録できる機能もあり、非常に有用なシステムだと思っています。

また、治験の情報というのは、あまりアベイラブルでないことが多くて、現場では非常に悩ましいところでありますが、NAVIFYに搭載されている治験検索システムは、そこを解決する一つの手段であり素晴らしいコンセプトであると思っています。また、エキスパートパネルの患者情報というのは、NAVIFYに保存されていくので、例えば半年後に「その患者さんの最新の治験情報」をシステム上で得ることができれば、これはとても有用なツールになると思いますね。

一 今後の展望やNAVIFY Tumor Board に期待することについてお話しください。

新しく始まったがんゲノム医療のエキスパートパネルにおいて、NAVIFYのようなシステムは必須であると考えています。特に治験情報は、

世界中どこも苦労している情報になりますが、 そこを解決するための機能は、NAVIFYに搭 載されています。今後さらにその情報の精査が うまくカスタマイズされていけば、さらに有用な ツールになるのではないかと期待しています。

富山大学附属病院

富山県内で唯一の特定機能病院として先端医療を提供。2019年9月には「がんゲノム医療拠点病院」に指定され、これまでに150例以上のエキスパートパネルを実施している。富山県や周辺医療施設とも連携し、富山県の「がんゲノム医療 | 発展のために尽力している。



写真提供元:富山大学附属病院



ロシュ・ダイアグリスティックス株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-2-70 カスタマーソリューションセンター **図 0120-600-152** http://www.roche-diagnostics.jp